

学校における評価方法に関して
&
生徒が自ら「主体的」に勉強に取り組む
ための施策について

全国学習塾協会理事

株式会社ヒューマレッジ(木村塾グループ)代表

木村 吉宏

●学校で通知表の付け方をどうすれば公平な評価になるか

教師の主観に左右されすぎないような評価の仕組み、学校間格差のない仕組みを構築する。

- ①共通の事象（テストの点数、提出物、授業態度など）について、その状況を一定のフォーマットに入力し、そのフォーマットから通知表に表示される「評定」が自動算出されるような仕組みを作る。
- ②保護者から通知表評価の基準がわからない、という声をよく聞く。評価項目としてあげられる事象（テストの点数・提出物・授業態度等）がそれぞれ何%を占める評価なのかなどの基準を明確にし、それを常時開示する。
- ③提出物や授業態度など教師の主観が入りやすいものについては、評価項目をチェックリスト化し、それらが先述のフォーマットに反映されるようにすれば、公平な評価に近づく。
- ④定期テスト（中間・期末・実力テスト）について、少なくとも市内の学校間でカリキュラムを統一し、共通のテストを実施すれば、客観的な学校間格差のない評価として使用することができる。
- ⑤少しテーマがずれるが、どの学校でも一定の共通フォーマットで評価がされ、テストも共通のものを使用するとなれば、それらの評価を学校間で共有・比較することが可能になる。つまり、良い意味での学校間競争が行われ、指導の質的向上が図られる。
- ⑥「思考」「表現」「判断」「知識」など、テストの各問題にねらいを定めて作成する。学校現場と教育委員会等が協働のもと、④で挙げたような共通のテストでそうしたねらいを持った問題作成をすれば、後述の「人物重視」の評価にも用いることができる。

●人物重視の評価基準について

「人物」評価の項目を明らかにし、学校活動のあらゆる場面を評価につなげる

①「人物」評価の項目について

今回の大学入試改革等と言われるところの「思考力」「判断力」「表現力」「主体性」「多様性」「協働性」などがあげられる。

②こうした項目について、学校生活のあらゆる場面（教科学習、素行面、課外活動・学級活動など）で評価の対象として評価基準をつくる必要がある。《※以下考えられる例》

○教科学習において、アクティブ・ラーニングを授業に導入し生徒の活動をしっかり観察

- ▶取り組み姿勢、授業での発言（ディスカッション形式・ディベート形式など）
- ▶プレゼンテーションやレポートの内容
- ▶授業で理解できたこと・疑問に思ったことなどの自己分析内容
- ▶生徒間のフィードバック（他己評価）

※夏休みの自由研究などでグループごとに何か一つのものを作り上げさせるなどしても同様の評価を行うことができると考える。

○素行面について

- ▶周りの生徒へのかかわり方（良い影響を与えられているかどうか・コミュニケーション）
- ▶班やグループを引っ張るリーダーシップが見られるか
- ▶いじめにかかわった、授業を妨害する（人に迷惑をかけるレベル）、周囲に対する思いやりに欠ける行動などは、ペナルティとして大きく減点。

○学級活動・課外活動

- ▶学校での係・役割などへの積極性、
- ▶部活動での取り組み姿勢、
- ▶生徒会活動などへの参加・取り組み姿勢

○その他

- ▶企業で実施されているような面接などを模擬的に行う。（グループ面接・個別面接・グループワーク等）
- ▶大学入試で課せられる小論文や口頭試問といったものを学校でも取り入れる。